

感染予防に配慮した小学校の体育学習

「ボール運動系(ゴール型)」の配慮事項

2020.10.28 札幌市教育委員会

<https://youtu.be/tk-agWzcjzk>



(8分 21秒)

【授業前】

- 手洗いの指導をしっかりと行う。
- 体育館を使用する場合は、ドアや窓を開けるなど、換気は可能な限り常時、困難な場合はこまめに行う。

【授業中】

《配慮のポイント》

- ☆児童同士がボールを奪い合うなど、接触する活動は実施しないこと。
- ☆特定の少人数や、特定のチーム同士による活動とするとともに、近接する場面が発生する活動については、回数や時間を絞るなどして実施すること。
- ☆ゲームなどを実施する場合は、近接する場面の頻度が多くなならないよう、移動できるエリアを制限するなどの工夫をすること。
- ☆活動中は不必要に大声を出さないように指導すること。

<学び方の指導例>

- 児童同士がボールを奪い合うなど、直接触れ合うことを避けるルール設定とする。
- グラウンドを使用することで、児童同士の距離を取りながら多くのコートを作り、運動量を確保できるようにする。
- 体育館で授業を実施する場合は、密を避けるため、学級単位が望ましい。
- ルール、コート(場)の広さ、人数、使用するボール(の種類)は、実態に合わせて工夫する。



<学習活動例>

■ポートボール(ドリブル無し)

- ・4対4(4人のうち、1人はゴールマン。)
- ・攻撃時は、3人で攻める。
- ・守備時は2人で守り、1人はガードマンとなる。
- ・守備側が攻撃に切り替わる際に、ガードマンも攻撃に参加して3人で攻める。
- ・また守備に切り替わる際には、再び1人がガードマンとなり2人で守る。



■セストポートボール

- ・5対5(5人のうち、1人はゴールマン。もう1人はガードマン。)
- ・3人で攻めたり、守ったりする。
- ・ゴールをコート内に置くことで、360度どこからでもシュートをすることができる。
- ・ゴールの周りの円には、ガードマンしか入れない。
- ・ガードマンとゴールマンとの距離が近くなり過ぎないように、実態に合わせて円の大きさを工夫する。



■ラインシュートボール

- ・6対6(6人のうち、2人はゴールマン。さらにもう1人は、ガードマン。)
- ・ゴールエリアとガードエリアを設定する。
- ・2人のゴールマンのうち、どちらかが味方からのシュートをキャッチできたら得点とする。
- ・ゴールマンはシュートを受けるために、ゴールエリア内を移動することができる。
- ・ガードマンは得点されないよう、ガードエリア内を移動することができる。



■対面パス/三角パス

- ・間隔を確保できるように、パスやキャッチをする位置、並ぶ場所などにコーンやケンステップなどを置くとよい。
- ・パスやキャッチをする場所を3カ所(三角形)にすることもできる。
- ・三角形の中に一人守備者を入れることで、ゲームに近い設定で行うこともできる。



■シュート

- ・シュートする人は3人、リバウンドを取る人は2人。
- ・シュートする3人の場所は、間隔を確保して3カ所設定する。
- ・シュートは順番に打つ。
- ・リバウンドを取ったら、シュートをする人にパスをする。
- ・時間を決めて、役割を交代する。



■ポートボール(ドリブル無し)

- ・4対4(4人のうち、1人はゴールマン。)
- ・ハーフラインを越えて相手陣地に入ったら、シュートすることができる。
- ・実態に応じて、グラウンドでのポートボールのようにガードマンを配置して行うこともできる。



■密を防ぐポートボール

- ・5対5(5人のうち、1人はゴールマン。)
- ・近接する場面の頻度が多ならないように、コート縦に2分割して、それぞれ赤チーム2人、青チーム2人ずつとし、移動できるエリアを制限する。
- ・それぞれ隣のエリアには入ることができない。
- ・隣のエリアにいる味方にパスをすることはできる。
- ・ハーフラインを越えて相手陣地に入ったらシュートすることができる。



■密を防ぐポートボール(応用編)

- ・4対4(4人のうち、1人はゴールマン。)
- ・近接する場面の頻度が多ならないように、コート縦に2分割して、片側に赤チーム2人、青チーム1人、もう一方に赤チーム1人、青チーム2人とし、移動できるエリアを制限する。
- ・お互いに数的優位の状況を作ることによって、そこを生かして攻めることができるようになる。
- ・ハーフラインを越えて相手陣地に入ったらシュートすることができる。



【授業後】

- 手洗いの指導をしっかりと行う。